

団体名	熊本留学生交流推進会議							
事業名	留学生のくまもとへの定着支援及び日本人学生の早期グローバル教育事業							
実施期間	平成29年5月27日～12月2日							
場 所	熊本大学、熊本市国際交流会館、国立阿蘇青少年交流の家							
参加者数	外国人留学生	その他外国人	日本人学生	地域住民	スタッフ	大学関係者	来場者等	合計
	223	46	270	41	56	36	8	680

<実施内容>

<p>1. ウェルカムパーティー(春)(秋) 4月入学及び10月入学の新入留学生を歓迎するため、5月27日と10月21日に熊本市国際交流会館及び熊本大学においてウェルカムパーティーを実施しました。春のパーティーではボランティアのサンバが披露され会場全体が盛り上がりました。県内の他大学に所属する留学生や日本人学生とも交流を深めました。</p> <p>2. 留学生・日本人学生交流キャンプ ・国際ボランティアワークキャンプ 12回目となる国際ボランティアワークキャンプは、8月8日～10日に国立阿蘇青少年交流の家で「Hello Discovery ～世界を見つめて行動しよう～」をテーマに実施しました。キャンプは、高校生・外国人留学生105名が参加し、興相寛氏の基調講演に始まり、キャンプファイヤーでの全体交流会、「防災」「国際医療」「食」「伝統文化」「ボランティア」「多文化共生」の6つのテーマ毎に分かれての分科会、分科会の報告を行いました。 ・グローバルワークキャンプ 5回目となるグローバルワークキャンプは、8月15日～18日に国立阿蘇青少年交流の家で「～広がる世界、広がる未来～」をテーマに実施しました。キャンプは、日本人学生・外国人留学生110名が参加し、梶岡潤一氏の基調講演「映画で平和を考える」で始まり、その後、「経済格差」「平和」「環境」「ボランティア」の4つのテーマに別れ、別分科会活動を行いました。</p> <p>3. 留学生就職セミナー 留学生就職セミナーは、12月2日に熊本大学グローバル教育カレッジで、熊本留学生交流推進会議、大学コンソーシアム熊本、熊本県の共催で開催しました。当日は、県内大学の外国人留学生11名が参加し、熊本(日本)で就職するための手法、外国人留学生を採用している企業・熊本で就職している元留学生の講話を聞いた後で、講師を交えた質疑応答や情報交換を行いました。</p> <p>4. 多文化共生留学生シンポジウム 多文化共生留学生シンポジウムは、12月9日に熊本市国際交流会館で「留学生と語ろう！世界の食文化 ～私の思う日本の餅(Mochi)～」をテーマに開催しました。県内各大学の外国人留学生5名がテーマに基づき発表しました。当日は、外国人留学生・日本人学生・一般の方等合わせて108名が参加しました。後半は、毎年恒例となっている日本の伝統行事である餅つきを行いました。外国人留学生、県内大学生及び高校生に地域住民の協力を得て、威勢良いかけ声のもと杵と臼を使って迫力ある餅つき体験をし、つきたての餅に舌鼓を打ちました。</p>

<記録写真>



ウェルカムパーティーの様子



留学生就職セミナーの様子



多文化共生留学生シンポジウムでの餅つきの様子

<参加者からのコメント>

Bさん(台湾)

留学生就職セミナーに参加して、日本の会社側の考えを聞いて、自分の努力の方向が分かり、自信がついた。Participating in the international student employment seminar, I was able to hear the thinking on the side of Japanese companies and gain confidence in the direction of my effort.

Kさん(日本)

国際ボランティアワークキャンプに参加して、他の分科会の人とも交流できて良かった。最初は壁を感じたが、段々と雰囲気良くなった。ドイツ人とコミュニケーションが取れた時は嬉しかった。異文化に触れたのは初めてだったが、とても興味を持った。It was wonderful to join international volunteer work camp and interact with people from other communities. At first I felt there was a wall, but the atmosphere gradually improved. I was especially pleased when I communicated with the German participants. It was my first contact with a different culture, and it was very interesting.